

# 2019年12月期 決算補足説明資料

2020年2月4日

 伊勢化学工業株式会社

## 業績のポイント(2018-2019)

(百万円)	2018	2019	増減	増減%
売上高	15,615	<b>16,854</b>	+1,239	+7.9%
営業利益	1,580	<b>2,057</b>	+477	+30.2%
当期純利益	578	<b>1,191</b>	+612	+105.9%

### ▼ヨウ素及び天然ガス事業

- ・ヨウ素製品の販売数量が堅調に推移
- ・ヨウ素国際市況が引き続き回復基調で推移

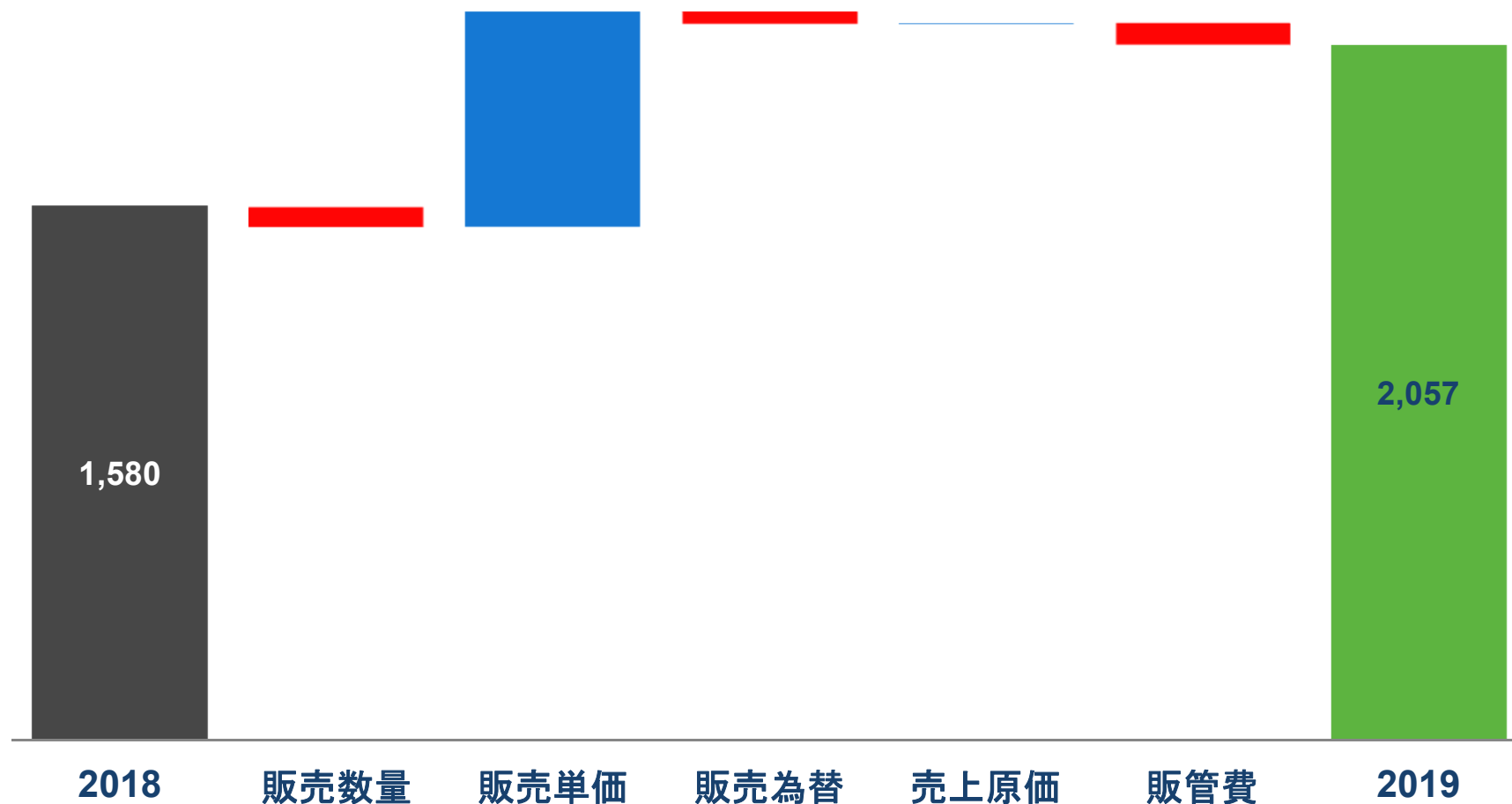
### ▼金属化合物事業

- ・前期に実施した塩化ニッケルの設備増強による、販売数量の増加、操業度の上昇により、売上高、営業利益とも増加

# 営業利益増減要因分析(2018-2019)

営業利益前年対比 +477百万円

(百万円)

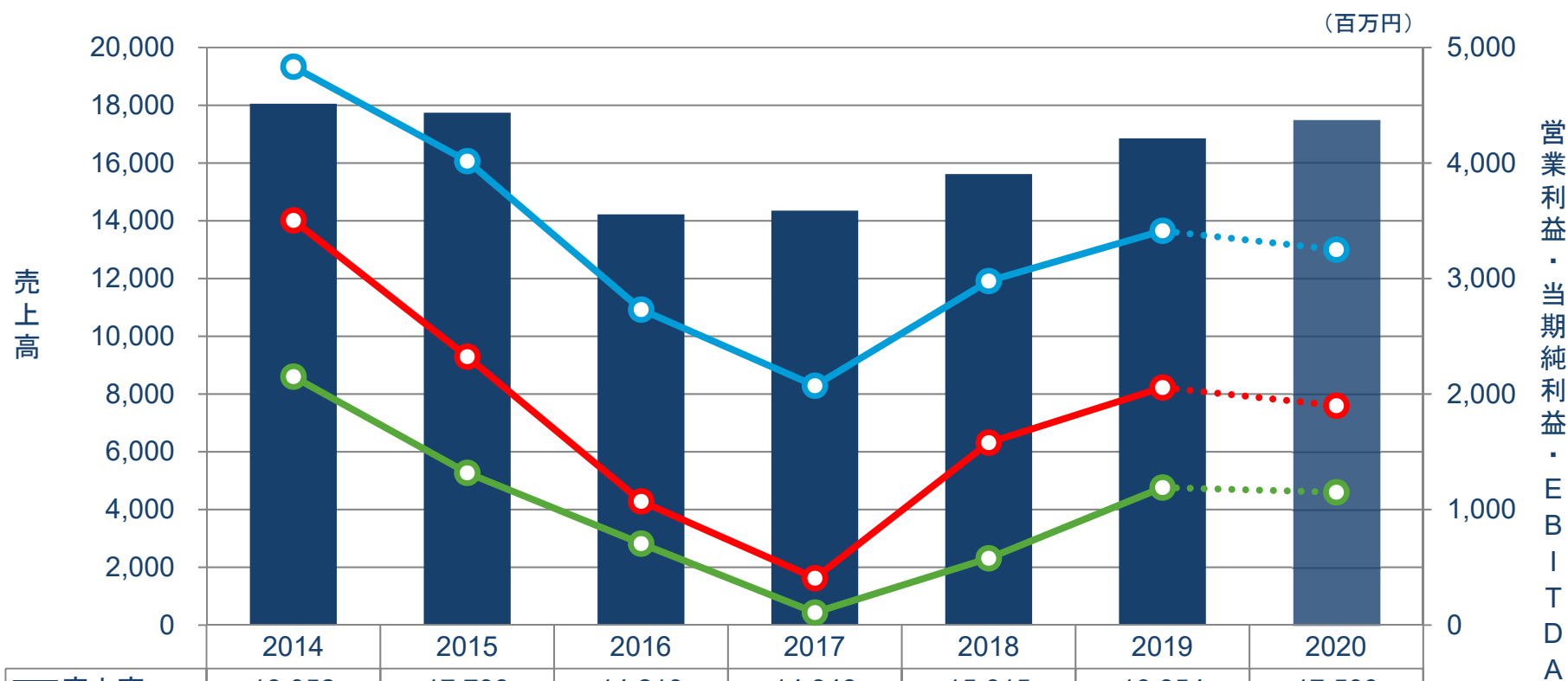


## 業績のポイント(2019-2020予想)

(百万円)	2019	2020	増減	増減%
売上高	16,854	<b>17,500</b>	+645	+3.8%
営業利益	2,057	<b>1,900</b>	▲157	▲7.7%
当期純利益	1,191	<b>1,150</b>	▲41	▲3.5%

- ・各事業とも、全体としては需要は堅調
- ・ヨウ素国際市況は引き続き回復基調
- ・原料価格の上昇、設備修繕等の費用増加、金属化合物の生産体制強化準備等により、利益面では減少

# 業績推移



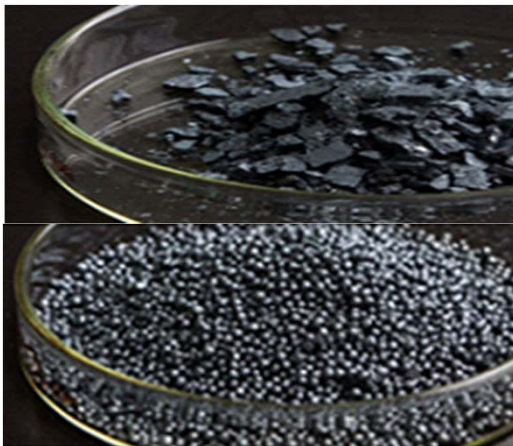
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
■ 売上高	18,052	17,738	14,219	14,348	15,615	16,854	17,500
● 営業利益	3,503	2,324	1,071	406	1,580	2,057	1,900
● 当期純利益	2,151	1,318	705	109	578	1,191	1,150
● EBITDA	4,834	4,017	2,732	2,072	2,979	3,413	3,250
減価償却費	1,331	1,693	1,661	1,666	1,399	1,356	1,350
設備投資	2,230	1,774	1,267	1,028	1,991	2,066	4,000
営業利益率	19.4%	13.1%	7.5%	2.8%	10.1%	12.2%	10.9%
ROE	9.7%	5.6%	2.9%	0.5%	2.4%	4.9%	4.5%
円/ドルレート	105.8	121.1	108.8	112.2	110.4	109.1	105.0

事業環境の変化に的確に対応して、中長期的な将来に向かって安定的に成長が図れる体制の確立を行います。

これには、生産性向上や既存設備の更新投資を継続して行うとともに、新事業創出のための開発を強化して参ります。

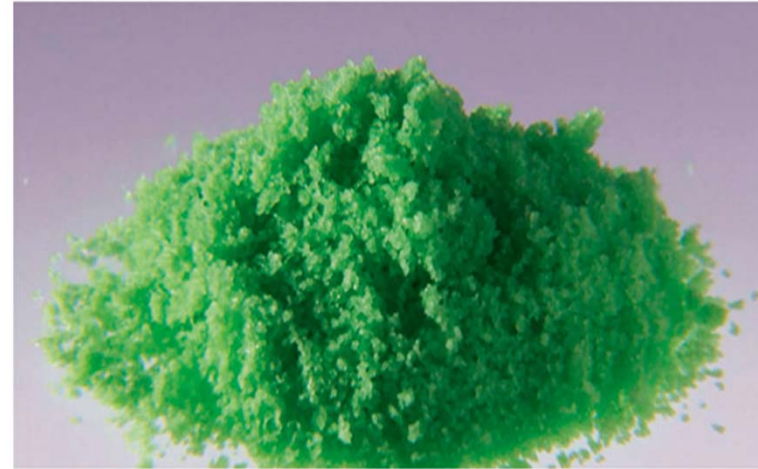
## 会社を取り巻く事業環境と課題②ヨウ素及び天然ガス事業

ヨウ素及び天然ガス事業につきましては、近隣の皆様のご理解を得ながら、坑井の開発、送水・送ガス配管の新設や更新について国内外での投資を積極的に進め、安定的に供給力を伸ばして行きます。一方で、限られた天然資源の有効活用を図るため、常に最善の製造プロセスをめざし高効率化を図るとともに、リサイクルの向上にも努めて参ります。



## 会社を取り巻く事業環境と課題③金属化合物事業

金属化合物事業においては、2018年に引き続き生産体制を強化し、十分な供給能力を確保致します。





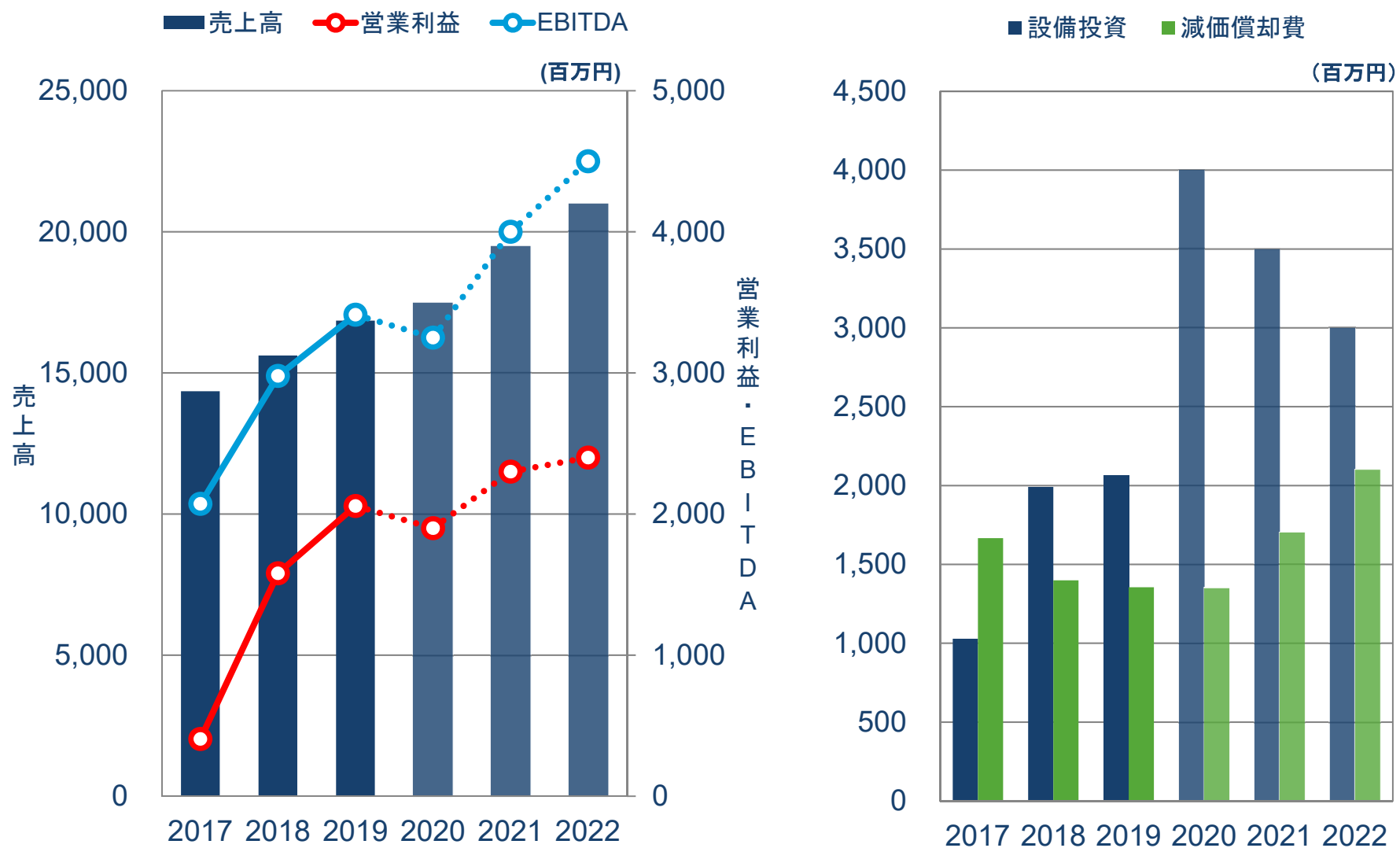
## 会社を取り巻く事業環境と課題④

新事業創出のための研究開発につきましては、組織を改正しより研究開発に注力する体制に改め、また外部研究機関との提携を一層強化致します。

このようにして、皆様のご期待にお応えし、安定的に成長を図って参る所存です。



# これからの3年間(2020年～2022年)の数値イメージ



コンスタントな需要増加に支えられて、事業全体の市場規模は年々拡大して行きます。  
このような事業環境を生かし、新規坑井開発、送水・送ガス配管の新設・更新等の設備投資に、向こう3年間で100億円超の資金を投じて参ります。合わせて、製品ポートフォリオの最適化、コストの適切な管理を実行します。

これらにより、

売上高営業利益率は、  
**10%以上**

ROE(自己資本利益率)は、  
**6%以上を目指します**

ご参考:2019年実績  
売上高営業利益率:12.2%  
ROE:4.9%

## 見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。